

「今、なぜロースクールで学ぶのか ☆列島縦断リレー☆法科大学院がわかる会 2015」

東京会場② 2015年10月24日 @駿河台記念館

<来場者①>

今回一番強く感じたことは、ロースクールで学んだことは一生の財産になるということです。例えば、ロースクールで法律英語に馴染むことにより実務に出たときに抵抗なく取り組めること、学者の先生から理論を学ぶことにより困難な判例も理論から解釈できる力がつくこと、実務家の考え方を学ぶことにより新しい時代に求められることは何かを常に認識すること、ソクラテスメソッドによって問題を抽出する力を磨くこと、そして法曹界に入ったあとにも支え合える仲間と出会えるといったことです。六法をぺらぺらめくればわかることだけでなく、知識、思考回路、人脈など極めて広範囲においてロースクールでは鍛えることができるのです。私の周りではロースクール入学を念頭にはいれつつも、まずは予備試験合格を目指す人が多いです。それはおそらく早く働きたいという気持ちと親への負担を少しでも軽くしたいという気持ちからなのだと思います。また、ロースクールで知識、思考回路、人脈などこれからの職業人生において生きてくるものを多く得られるということを知らないという面もあると思います。大学四年間予備試験合格に向けて勉強をし続け、卒業後すぐに修習へ行き法曹として活動するというのは確かにエリートコースだと思います。しかし学部の間は広い分野に関心を持ってさまざまな経験をし、ロースクールに進んで法曹としての素養を身につけてもいいのではないかと思います。むしろその方が当事者の状況や気持ちの汲める法曹になれるのではないのでしょうか。

次に、今回のイベントで法曹資格を持っていると広い可能性があるのだということを知りました。昨今苦勞して法曹資格を取得しても普通のサラリーマンより年収が少ないという悲しい話をよく耳にしますが、人々が権利に鈍感なだけで潜在的な法曹の需要は多くあり、今後新しい分野の開拓が進むことも大いに考えられるということです。また、スポーツや音楽、ITといった専門性を身につけ、法的なアドバイスをすることによってビジネスにおいても良き相談相手となれます。そして今もなお司法過疎地域に住む人は近くに有資格者が来ることを待ち望んでいます。更に、東京五輪に向けてますますグローバル化が進み複雑な社会になる日本において立法の分野でも法律の知識を持つ人は必要とされると思います。法曹資格を持っていれば自分次第でどのような分野とも繋がれ、その中枢部分で活躍できるということを感じました。

<来場者②>

私は知人の紹介で、このキャラバンの存在を知り、参加しました。

このキャラバンは今の法科大学院について詳しく知ることができ、また現役の法曹の方々と直接会って、話すことが出来たため、とても有意義なものでした。さまざまな大学

の法科大学院が参加していたため、それぞれの法科大学院の学習支援や内部の雰囲気などを比較することが出来、自分にあった法科大学院を探すことができました。

また、今回のキャラバンでは、法曹関係者に検察官、裁判官、弁護士が参加されており、特に弁護士の方々には企業内弁護士、任期付き公務員の方もいらっしゃり、一口に弁護士といっても、さまざまな職種があるのだと実感しました。今回のキャラバンでさまざまな法曹関係者の方の話聞くことが出来、自分のキャリアを考える際の広がりを持たせてもらったと感じました。